

東京家政学院短大 今井弥生 ○高野美栄 飯牟禮君子

目的 ファッション情報に敏感な女子学生を対象に、被服造形学演習において、学生が最も着用したいワンピース・ドレスを創作、着装させ、形態、素材、ドレスと靴、装飾品の色彩を調査、更にイメージ分析をおこなった。個人値と色彩との対応において感情的意味を明らかにし、色彩のもつ効果を被服造形計画に役立てることを目的とした。

方法 1) 被験者 本学短大 生活科学科学生76名(年齢18~19歳)、2) 生地購入時期 1993年4月、完成 1994年1月、3) 形態の分類、4) 生地素材の鑑別、5) 表地・裏地の測定 日清紡色彩管理システムソフトウェア、6) 着装評価 形容詞22尺度、5段階評定、7) 主成分分析法 イメージ・プロフィール、相関行列、因子負荷量、個人値、色彩との対応、因子の解釈・意味づけ

結果 形態は主にインサイド・ライン、生地素材はウールが殆どであった。表地の色彩に対して裏地は同系色、トーンは暗い、明るい、うすい、くすんだの順である。着装におけるカラー・コーディネートはドレスと靴が黒、パールのネックレス、又は黒のリボンの上に白い花をアレンジ、ピンクのドレスに紺の靴、紺のリボンでネック・バンド、明るい青のドレスに黒又は赤の靴、ペンダント等 流行を意識したおしゃれ感覚が強い。イメージと色彩、個人値の対応において、明るい、可愛らしい、若々しい「ロマンチック」の因子にピンク、オレンジ等の明るい、うすい色彩。落ち着いた、強い、洗練された「シック」の因子に黒等暗い色彩。上品な、単純な「シンプル」の因子に白、ベージュ、グレーのうすい色彩となった。服装表現において色彩の効果は重要な意味をもつと考えられる。